

大野泰雄：“GCPハンドブック”，治験における新しい手法（マイクロドーズ臨床試験），渡邊裕司監修，（株）じほう，東京（2009），pp. 22-32

大野泰雄：“医薬品GLPガイドブック 2009”，非臨床試験をめぐる新たな流れ -JaCVAMの活動を中心に，（財）日本薬剤師研修センター編集，（株）薬事日報社，東京（2009），pp. 6-31

大野泰雄：“トキシコロジー”，編集委員長として全般的に内容の設定，原稿依頼，校正，索引作成に関与，日本トキシコロジー学会教育委員会編集，（株）朝倉書店，東京（2009）

大野泰雄：“食品衛生ハンドブック”，物質科学における安全性評価の考え方，体内動態の解析と評価，林 裕造，大野泰雄編集，丸善(株)，東京（2010），pp. 31-37, pp. 74-82

大野泰雄：“実践行動薬理学”，日本薬理学会の動物実験指針と動物実験の第三者評価について，日本薬理学会編集（編集責任者：武田弘志，辻 稔，赤池昭紀），東京（2010），pp. 337-347

四方田千佳子：“最新ジェネリック医薬品戦略”，ジェネリック医薬品の情報，データ，品質に関する留意点～アクションプログラムをふまえて～，（株）情報機構，東京（2010），pp. 181

四方田千佳子：“日本薬局方技術情報2010”，一般試験法に関する技術情報，1.09定性反応，6.10溶出試験法，（財）日本公定書協会編，（株）じほう，東京（2010），pp. 19-26, pp. 75-81

香取典子，坂本知昭：“日本薬局方第二追補 解説書”，（株）廣川書店，東京（2009）

伊豆津健一：“熱量測定・熱分析ハンドブック第2版”，医薬品凍結乾燥製剤の熱測定，日本熱測定学会編，丸善（株），東京（2010），pp. 139

阿曾幸男，吉岡澄江：“難水溶性薬物の物性評価と製剤設計の新展開”，非晶質の緩和と結晶化，（株）シーエムシー出版，東京（2010），pp. 224-235

Hiyama, Y.：“Quality Topics Q-IWG* Quality Imple-

mentation Working Group, Proceeding of ICH Public Meeting”, ICH Japan Symposium 2009, (2009), pp. 114-122

檜山行雄：“承認申請をふまえたICH Q8・9・10の実例と留意点”，第1章 ICHQトリオの実践・運用に際し留意すべき点，石川英司監修，サイエンス&テクノロジー（株），東京（2010），pp. 1-7

坂本知昭：“寄生虫薬物治療の手引き2010”，ヒューマンサイエンス振興財団政策創薬総合研究事業「熱帯病・寄生虫症に対する稀少疾病治療薬を用いた最適な治療法による医療対応の確立に関する研究」班（略称，熱帯病治療薬研究班）編集，東京（2010），pp. 90-92

小出達夫：“事例・トラブル解決から理解する 製剤・原薬合成別 スケールアップ”，第4章 ICHQ8の概説～デザインスペースの概念を含めて～，（株）情報機構，東京（2009），pp. 135-141

小出達夫：“承認申請をふまえたICH Q8・Q9・Q10の実例と留意点”，第6章 QbDにおける申請時の留意点，サイエンス&テクノロジー（株），東京（2010），pp. 94-104

川崎ナナ：“日本薬局方技術情報2010”，ヘパリンカルシウム，ヘパリンナトリウム，（財）日本公定書協会編，（株）じほう，東京（2010），pp. 131-134

山口照英：“バイオ後続品／バイオシミラー医薬品～日米欧の規制・市場状況・承認事例から今後の展望～”，（株）情報機構，東京（2010），pp. 3-19, pp. 44-57

山口照英：“先端バイオ医薬品の評価技術最前線”第1章開発戦略と研究の流れ，考え方，（株）シーエムシー出版，東京（2010），pp. 3-13

日向昌司：“先端バイオ医薬品の評価技術”，第2章 組換え体・培養細胞由来タンパク質性医薬品，3. バイオ医薬品の生産基材の選択と製造における留意点，（株）シーエムシー出版，東京（2010），pp. 43-55

多田 稔，石井明子：“先端バイオ医薬品の評価技術”，第3章トランスジェニック動物・植物由来タンパク質性医薬品，（株）シーエムシー出版，東京（2010），pp. 81-98

- 橋井則貴, 小林 哲, 川崎ナナ: “先端バイオ医薬品の評価技術”, 第9章バイオ医薬品の特性解析 1. 構造・組成解析, (株)シーエムシー出版, 東京 (2010), pp. 171-182
- 小林 哲, 橋井則貴, 川崎ナナ: “先端バイオ医薬品の評価技術”, 第9章バイオ医薬品の特性解析 2. 物理的・化学的性質解析, (株)シーエムシー出版, 東京 (2010), pp. 183-196
- 鈴木琢雄, 多田 稔, 石井明子: “先端バイオ医薬品の評価技術”, 第9章バイオ医薬品の特性解析 3. 生物学的性質解析, (株)シーエムシー出版, 東京 (2010), pp. 197-211
- 山口照英: “先端バイオ医薬品の評価技術”, 第14章バイオ後続品の開発における品質・安全性・有効性評価の留意点と承認申請, (株)シーエムシー出版, 東京 (2010), pp. 269-283
- 合田幸広: “漢方薬・生薬薬剤師講座テキスト1 第3版”, 食薬区分と違法ドラッグ, (財)日本薬剤師研修センター編, 東京 (2010), pp. 108-126
- 合田幸広: “日本薬局方技術情報2010”, 木クレオソート, リュウコツ末, ローヤルゼリー, 生薬の鏡検写真と生薬及び漢方処方エキス薄層クロマトグラフィー確認試験例, (財)日本公定書協会編, (株)じほう, 東京 (2010), pp. 121-125, 192-194, color 3-10
- 合田幸広, 袴塚高志 (分担執筆): “改訂一般用漢方処方の手引き”, (財)日本公定書協会監修, 日本漢方生薬製剤協会編, (株)じほう, 東京 (2009)
- 花尻 (木倉) 瑠理: “漢方薬・生薬薬剤師講座テキスト1 第3版”, 法規制薬物及び麻薬原料植物, (財)日本薬剤師研修センター編, 東京 (2010), pp. 213-223
- 内田恵理子: “先端バイオ医薬品の評価技術”, 第8章細胞基材のマイコプラズマ試験, (株)シーエムシー出版, 東京 (2010), pp. 151-167
- 内田恵理子: “日本薬局方技術情報2010”, 20. バイオテクノロジー応用医薬品/生物起源由来医薬品の製造に用いる細胞基材に対するマイコプラズマ否定試験, (財)日本公定書協会編, (株)じほう, 東京 (2010), pp. 85-91
- 五十嵐良明: “医療材料・医療機器—その安全性と生体適合性への取り組み—”, マウス感作性試験, 抗原性試験, 土屋利江編, (株)シーエムシー出版, 東京 (2009), pp. 1-6, pp. 12-17
- 五十嵐良明: “衛生試験法・注解2010”, 3.2 香粧品試験法, (社)日本薬学会編集, 金原出版(株), 東京 (2010), pp. 673-711
- Nishikawa, K., Tominaga, N., Uchino, T., Oikawa, A., Tokunaga, H.: “Polyphosphate Contributes to Cd Tolerance in *Chlamydomonas Acidophila* KT-1”, in *Algae: Nutrition, Pollution Control and Energy Sources*, ed. Kristian, N., H., Nova Science Publishers, Inc., New York (2009), pp. 13-21
- 河村葉子: “食品安全ハンドブック”, 第16章 食品用器具・容器包装, 第17章 食品用洗浄剤, 食品安全ハンドブック編集委員会, 丸善(株), 東京 (2010), pp. 380-397
- 河村葉子: “衛生試験法・注解2010”, 3.1.6 玩具, (社)日本薬学会編集, 金原出版(株), 東京 (2010), pp. 664-671
- 佐藤恭子: “食品安全ハンドブック”, 15.8 食品添加物の摂取の実態, 15.9 検査, 15.11.5 香料, 食品安全ハンドブック編集委員会, 丸善(株), 東京 (2010), pp. 344-346, pp. 362-363
- 佐藤恭子: “衛生試験法・注解2010”, 2.3.8 甘味料, (社)日本薬学会編集, 金原出版(株), 東京 (2010), pp. 350-370
- 山崎 壮: “食品安全ハンドブック”, 15.5 成分規格, 食品安全ハンドブック編集委員会, 丸善(株), 東京 (2010), pp. 335-338
- 六鹿元雄: “衛生試験法・注解2010”, 3.1.1.2 3) アセトアルデヒドおよびホルムアルデヒド など, (社)日本薬学会編集, 金原出版(株), 東京 (2010), pp. 603-605, pp. 626-627, pp. 632-633, pp. 640, pp. 655-658
- 山本茂貴: “食品安全ハンドブック”, 13.2 食中毒, 食品安全ハンドブック編集委員会, 丸善(株), 東京 (2010), pp. 243-245
- 山本茂貴: “食品微生物学用語事典”, 保菌, 汚染, 二次

感染, 介卵感染, 一次汚染, スクレイパー, 伝達性海綿状脳症, 肉骨粉, 中央法規出版(株), 東京 (2010)

五十君静信: “食品由来感染症と食品微生物”, *Cronobacter sakazakii* (*Enterobacter sakazakii*), *Staphylococcus*, 中央法規出版(株), 東京 (2009), pp. 306-314, pp. 424-438

五十君静信: “食品微生物学用語事典”, リステリア, リステリア食中毒, リステリオリジン, エンテロバクター・サカザキ, 中央法規出版(株), 東京 (2010)

五十君静信: “六訂版家庭医学大全科”, 黄色ぶどう球菌食中毒, リステリア食中毒, (株)法研, 東京 (2010)

Sugita-Konishi, Y., Nakajima, Y.: “Chapter 15 Nivalenol on the mycology, occurrences, toxicology, analysis, control and regulation” In: *Mycotoxins in Food, Feed and Bioweapons*, ed. Rai, Mahendra, Varma Ajit., Springer, Heidelberg (2009), pp. 253-273

小西良子, 田端節子: “食品安全の事典”, 2,4カビ毒, (社)日本食品衛生学会編集, (株)朝倉書房, 東京 (2009), pp. 244-254

宮原美知子 (分担執筆): “食品安全・衛生学実験”, 栄養科学シリーズNEXT, (株)講談社サイエンティフィク, 東京 (2010), pp. 26-45

宮原美知子 (分担執筆): “薬学生のための栄養と健康”, 三共出版(株), 東京 (2010), pp. 178-207

宮原美知子 (分担執筆): “食品微生物学辞典”, 日本食品微生物学会監修, 中央法規出版(株), 東京 (2010), pp. 168, pp. 192-3

工藤由起子 (分担執筆): “食品微生物学辞典”, 日本食品微生物学会監修, 中央法規出版(株), 東京 (2010), pp. 137, pp. 157, pp. 186-187, pp. 248, pp. 288-289, pp. 290, pp. 292-293

渡辺麻衣子 (分担執筆): “食品微生物学辞典”, 日本食品微生物学会監修, 中央法規出版(株), 東京 (2010), pp. 24, pp. 64, pp. 98-99, pp. 127, pp. 131, pp. 139, pp. 168, pp. 175, pp. 213, pp. 218, pp. 240, pp. 265, pp. 278, pp. 294-295

鎌田洋一 (分担執筆): “食品微生物学辞典”, 日本食品微生物学会監修, 中央法規出版(株), 東京 (2010), pp. 31, pp. 51, pp. 63, pp. 101, pp. 121, pp. 137

大西貴弘 (分担執筆): “食品微生物学辞典”, 日本食品微生物学会監修, 中央法規出版(株), 東京 (2010), pp. 2, pp. 11, pp. 19, pp. 25, pp. 151, pp. 194, pp. 221, pp. 240, pp. 248, pp. 252, pp. 264

杉山圭一, 室井正志, 棚元憲一: “エンドトキシン研究11—新生「日本エンドトキシン・自然免疫研究会」の発展を願って—”, *Toll-like receptor 4への作用が期待される敗血症治療薬候補とリード化合物について*, 嶋田紘, 谷 徹, 横地高志, 清水智治, 医学図書出版(株), 東京 (2009), pp. 20-22

杉山圭一, 室井正志, 棚元憲一, 小西良子: “エンドトキシン研究12—自然免疫学の新たな展開—”, *LPS誘導性一酸化窒素産生におよぼすトリコテセン系マイコトキシンの影響*, 高田春比古, 谷 徹, 嶋田 紘, 医学図書出版(株), 東京 (2009), pp. 81-83

奥田晴宏: “医薬品評価概説”, (株)東京化学同人, 東京 (2009), pp. 9-48

畝山智香子: “ほんとうの「食の安全」を考える—ゼロリスクという幻想—”, (株)化学同人, 京都 (2009)

畝山智香子: “食品安全ハンドブック”, 5.5安全性情報の収集, 解析とその活用, 食品安全ハンドブック編集委員会, 丸善(株), 東京 (2010), pp. 86-90

Sato, T., Morita, T.: “Chapter 95, Japan, In *Information Resources in Toxicology, 4th Edition* (Ed. Philip Wexler)”, Academic Press, Amsterdam (2009), pp. 991-1011

城内 博, 宮川宗之, 森田 健: “英和对訳 最新OECD毒性試験ガイドライン”, (株)化学工業日報社, 東京 (2010)

Nakano, T., Mochizuki, Y., Kato, A., Fukuzawa, K., Ishikawa, T., Amari, S., Kurisaki, I., Tanaka, S.: “Developments of FMO Methodology and Graphical User Interface in ABINIT-MP”, In ed. Dimitri Fedorov, Kitaura, K., *The Fragment Molecular Orbital Method: Practical Applications to Large Molecular Systems*,

CRC Press, Boca Raton, FL (2009), pp. 37-62

Mochizuki, Y., Nakano, T., Taguchi, N., Tanaka, S.: **“Excited States of Photoactive Proteins by Configuration Interaction Studies”**, In ed. Dimitri Fedorov, Kitaura, K., *The Fragment Molecular Orbital Method: Practical Applications to Large Molecular Systems*, CRC Press, Boca Raton, FL (2009), pp. 63-90

Fukuzawa, K., Mochizuki, Y., Nakano, T., Tanaka, S.: **“Application of FMO Method to Specific Molecular Recognition of Biomacromolecules”**, In ed. Dimitri Fedorov, Kitaura, K., *The Fragment Molecular Orbital Method: Practical Applications to Large Molecular Systems*, CRC Press, Boca Raton, FL (2009), pp. 133-170

井上 達, 関田清司: **“食品安全ハンドブック”**, 2.1生体科学における安全性評価の考え方, 5.2有害性影響の解析と評価, 10-1.安全性評価手法とリスク管理, 食品安全ハンドブック編集委員会, 丸善(株), 東京 (2010), pp. 17-30, pp. 66-74, pp. 170-177

菅野 純: **“食品中の化学物質と安全性”**, 第4章-2.健康食品, (社)日本食品衛生協会, 東京 (2009), pp. 138-149

関田清司, 井上 達: **“食品安全の辞典”**, 食品関連物質のリスク評価, (社)日本食品衛生学会編集, (株)朝倉書店, 東京 (2009), pp. 275-282

北嶋 聡: **“新版トキシコロジー”**, 5.3食品, 食品添加物, 食品汚染物質, 飼料添加物, 日本トキシコロジー学会教育委員会編集, (株)朝倉書店, 東京 (2009), pp. 118-126

北嶋 聡: **“3)情動・認知に関する化学物質,平成20年度 化学物質リスク研究シンポジウム「健康と化学物質—化学物質と幼児行動—」講演集”**, (社)日本食品衛生協会, 東京 (2009)

小島 肇: **“新版 トキシコロジー”**, 皮膚・粘膜毒性, 日本トキシコロジー学会教育委員会編集, (株)朝倉書店, 東京 (2009), pp. 246-254

小島 肇: **“GLP/非GLP試験の具体的実施ポイント”**, 医薬部外品と化粧品, (株)情報機構, 東京 (2009), pp. 425-433

小島 肇: **“医薬部外品有効成分承認取得のための対策と課題”**, 薬用化粧品の承認取得における安全性試験をめぐる問題点, (有)フレグランスジャーナル社, 東京 (2010), pp. 48-58

Hirata-Koizumi, M., Hasegawa, R., Hirose, A. and Ema, M.: **“General Applied Toxicology 3rd ed. 81. Susceptibility of neonatal rats to xenobiotics”**, ed., Ballantyne, B., Marrs, T. C. and Syversen, T., John Wiley & Sons Ltd., Chichester (2009), pp. 2041-2054

平田睦子, 広瀬明彦: **“食品安全ハンドブック”**, 8.3.3多環芳香族炭化水素, 食品安全ハンドブック編集委員会, 丸善(株), 東京 (2010), pp. 142-144